

米国の綿花生産とその処理策

森 川 信

世界の綿業に占める米綿の地位

綿花は近年、化学繊維との有力な競合にさらされて
いるとはいえ、衣料としての需要と効用の著しい点、
並びに、国際商品として、国際貿易に占める位置は依
然として高い。世界総産額、ならびに総消費高におい
ても特に化学繊維の発達した米国を除き、綿花七割、
レーヨン一・八割、羊毛一・一割、絹〇・一割の比率
で繊維の王座はゆるがない。

一九二〇年代以来、世界各地とも驚くべき増産の傾
向を示しているが、次にかかげる、世界綿花総生産高
によれば（統計、参照）、一九五一年―五二年綿花年度
において、三千四百四十四万五千俵のうち、米国はそ

のほとんど半分を占める毫千五百五万俵を生産してい
る。ついて、ソ聯三百八十万俵、中国三百十万俵、エ
ジプト百五十八万六千俵、ブラジル百五十五万俵の順
位である。

更に世界綿業国々別消費高（統計、参照）は一九五〇
―五一年綿花年度において、米国、一千五十万俵、印
度三百十五万俵、中国二百七十万俵、ソ聯二百六十
万俵、イギリス二百十三万俵、日本百六十万俵などである。

綿花生産の歴史

一七九三年エリー・ホイットニー Eli Whitney によ
る、ソージン繰綿機 *Spinning* の発明を契機として、種
綿より繊維を採取する作業が能率化し、綿花生産は、

世界の綿花生産

単位一千俵（一俵正味478封度）

	(1938—39)	(1948—49)	(1949—50)	(1950—51)	(1951—52)
北米					
メキシコ	298	528	917	1,156	1,300
合衆国	11,617	14,649	15,973	9,877	15,050
その他					
計	<u>11,949</u>	<u>15,226</u>	<u>16,960</u>	<u>11,100</u>	<u>16,450</u>
アジア及大洋州					
中国 (イ)	2,301	2,120	1,700	2,400	3,100
印度 (イ)	5,151	2,000	2,390	2,735	2,970
パキスタン (イ)	(ロ)	810	1,020	1,220	1,148
その他					
計	<u>8,282</u>	<u>5,539</u>	<u>5,939</u>	<u>7,455</u>	<u>8,550</u>
欧州	158	155	161	228	258
ソ連	3,800	2,600	2,700	3,300	3,800
南米					
ブラジル	1,989	1,530	1,350	1,550	1,550
その他					
計	<u>2,705</u>	<u>2,345</u>	<u>2,364</u>	<u>2,534</u>	<u>2,566</u>
アフリカ洲					
エチオプト	1,728	1,840	1,786	1,762	1,586
その他					
計	<u>2,638</u>	<u>3,075</u>	<u>3,020</u>	<u>3,156</u>	<u>2,816</u>
世界額生産額	<u>29,532</u>	<u>28,940</u>	<u>31,144</u>	<u>27,773</u>	<u>34,445</u>

[出所] —— Cotton year book (1952 Textile Mercury)

(イ) 非商品生産を含む (ロ) 印度に含まる

世界各国消費高

単位一千俵（一俵478封度）

	(1938—39)	(1947—48)	(1948—49)	(1949—50)	(1950—51)
北米					
合衆国	6,858	9,354	7,795	8,851	10,509
その他					
計	<u>7,410</u>	<u>10,068</u>	<u>8,509</u>	<u>9,610</u>	<u>11,365</u>
アジア					
中国	3,295	3,050	2,950	2,300	2,750
印度	3,436	3,600	3,730	3,250	3,150

そのコスト切下げに成功したのであった。

この繰綿機は、合衆国農業における最初の主要な発明であって、他の如何なる技術的な新機軸にも劣るものではなかった。

しかも、ホイットニイのソージンは、英本国の各種の発明と相俟って、南部綿作地帯(Cotton Belt)のプランテーション制と奴隷との結びつきを急速度に展開した。この発明以前は種実綿(cottonseed)より種を除去する作業は、一日一人当り、最高六封度を越えなかった。したがって綿花は他の繊維に比して高価であった。植民時代、西印度より招来したといわれるローラー・ミルは海島綿生産地において、殆ど何等の貢献もせず、依然として綿花を実用繊維とする迄にいたらなかった。一七八〇年代のヨーロッパの被服材料としての比率が、羊毛七七・一麻一八・〇 綿花四・六であった(体系商品辞典、参照)ことによっても容易に考えられる。化学繊維が、近年綿花に挑戦する迄、最低価格の衣料原料としての綿花の存在は、まことにソージン繰綿機と、

日本その他	2,681	591	737	1,032	1,539
計	<u>10,050</u>	<u>7,912</u>	<u>8,180</u>	<u>7,576</u>	<u>8,497</u>
欧州					
仏	1,295	1,092	1,040	1,125	1,208
独	1,150 ⁽¹⁾	434	584	873	1,050
英	1,690	1,934	2,020	2,092	3,135
伊	665	832	955	936	987
日本その他					
計	<u>8,228</u>	<u>6,963</u>	<u>7,424</u>	<u>8,026</u>	<u>8,546</u>
ソ連	3,809	1,900	2,200	2,300	2,600
南米					
ブラジル	642	840	825	825	870
日本その他					
計	<u>926</u>	<u>1,510</u>	<u>1,550</u>	<u>1,547</u>	<u>1,631</u>
アフリカ州	155	303	330	341	390
世界総計	<u>30,578</u>	<u>28,656</u>	<u>28,193</u>	<u>29,400</u>	<u>3,3029</u>

註 (1)全独

出所：I.C.A.C.

これに関連ある綿業の種々なる新機軸の賜といつて過言ではない。

米綿生産は又、英本国の綿業の發達が、その市場を提供し、南部はタバコ、インディゴ-indigoを、短毛種陸地綿の生産に切替えた。一八〇〇年の七万三千俵から、一八四〇年の百三十四万七千俵の飛躍的な生産は、ついで二十年後の一八六〇年に三倍の三百八十四万俵を越えるほどに増大した。当時、南部の綿花はニュー・イングランドと英本国の發展的な綿業の原材料であり、総輸出額の六十パーセントが、これにむけられた。

アラバマ Alabama ミシシッピー Mississippi テキサス Texas の黒土地帯 Black prairie soils および、ヴェイクスバークのヤズーデルタの河床地域 Bottomlands が、最大の綿花生産地である (N. A. Benton: Fundamentals of Economic Geography 3rd ed. p. 182) といわれるのは、ミシシッピーその他の支流の洪水の度毎に肥沃な土壤をこの地方に沈積する結果であるが、一

八二〇年頃にはジョージア、Georgia サウスカロライナ South Carolina が、主要な綿花地帯であった。プランテーション経営者は、肥沃な土地を求めて移動していった。一八五〇年にはアラバマが首位となり、一八六〇年にはミシシッピーに移った。南部の綿作農業人口の殆ど全部は、奴隷を所有しない小規模農業であったが、奴隷労働に依存する大規模プランテーション経営によって、利潤の多い綿作は牛耳られていた。

南北戦争(一八六一—五年)につづく数年間における、より安価な維維えの強度の需要、および従来廃品として処理された綿実が、肥料、飼料、綿実油等の製造に向けられるようになり、綿花地帯は更に拡大した。

西部はテキサス、北部はオクラホマ Oklahoma アイカンサス Arkansas テネシー Tennessee ミズーリ Missouri の各州にのびた。一八八〇年以後には綿紡績業がこの地帯に、根をおろして、原料と低廉な労働力の供給によって、紡績と綿作の統合が実現し、コトンベルトの綿花生産額の過半数を紡績に投入したのであ

った。これこそ、ニュー・サウス、New South の重要な性格の一つであった。一八九〇年代新英州の綿業は依然として合衆国の中心であって、嫁動紡錘数壱千五百万錘を擁して、全国総生産高の七十六パーセントを占めていた。南部諸州が漸次その紡錘数を増すや、新英州は辛じて五十パーセントを維持するにすぎなくなり、一九一二年においては、南部綿業が全米三千五十万錘中の壱千五百万錘をもって綿花総生産高の過半数二百七十五万俵を消費した (J. I. Funder: Agricultural Progress in the Cotton Belt since 1920, P. 499) ことよって、もニュー・サウスの性格をうかがうことができる。更に綿花が「合衆国南部地方全経済的、社会的生活の根幹をなす」(ベントン前掲書 P. 182) ことを知るのである。

綿作々付反別は、一八七〇年の壱千万エーカーから漸次増大して、一九二六には四千四百六十万八千エーカーのピークを示した。一九三〇年の初頭より激減して一九三三年以来辛うじて、三千万エーカーを維持し、

一九四四年—四五年綿花年度には二千万エーカーを割った。(作付反別—世界及全米、参照)
それ以来、かつての、一連のコットンベルトは分割して数地区を形成した。サウスカロライナ及びノースカロライナ南部地区、アーカンサス、ルイジアナ、テキサス、ミシシッピ各州のミシシッピ—河流域地区、アーカンサス、ルイジアナ、テキサス諸州の辺境地区、

世界ならびに米国綿花作付反別

(単位1,000エーカー)

(綿花年度)	(米国)	(世界)
1935—36	27,509	78,513
1936—37	29,755	84,792
1937—38	33,623	93,118
1938—39	24,248	76,516
1939—40	23,805	72,999
1940—41	23,806	76,182
1941—42	22,236	74,786
1942—43	22,602	67,619
1943—44	21,610	68,169
1944—45	19,617	59,997
1945—46	17,029	55,131
1946—47	17,584	56,707
1947—48	21,330	60,174
1948—49	22,911	62,804
1949—50	27,439	69,765
1950—51	17,843	67,591

〔出所〕 ニューヨーク綿花取引所年鑑より作成

テキサス州東部、及び北西部地区がこれである。

コトンベルトの綿花生産高を、東部諸州(南カロライナ、北カロライナ、ジョージア、アラバマ)デルタ地帯(ミシシッピ、アーカンサス、ルイジアナ)及びオクラホマ、テキサス両州地区について見るならば次のようである。

年度	東部諸州	デルタ諸州	テキサス オクラホマ	計
1925	5,017	4,501	5,854	15,372
1926	5,657	4,262	7,401	17,320
1927	4,237	2,901	5,389	12,527
1928	4,122	3,409	6,310	13,841
1929	4,769	4,155	5,083	14,005
1935	3,751	2,668	3,523	9,942
1940	4,003	3,207	4,036	11,246
1941	2,970	3,167	3,370	9,507
1942	3,831	4,046	3,746	11,603
1943	3,589	3,702	3,207	10,498
1944	3,952	3,951	3,280	11,183
1945	3,158	2,989	2,079	8,226
1946	2,980	2,530	1,910	7,420
1947	3,205	3,350	3,767	10,322
1948	4,350	5,075	3,600	13,025

[出所] —— 米国内務省綿花統計
(単位千俵)

米綿の種類

綿花は元来、熱帯的植物で、多年性であるが、早くから亜熱帯的環境に適応してきた。綿花は cotton 品種と変種を合せると四十種に余るアオイ科の植物ワタ (*Gossypium* 属) の種子の表面に密生する毛茸で米綿の陸上綿 *upland cotton* *gossypium hirsutum* はその代表的な品種である。

米綿は品質の点より見るならば、印度綿とエジプト綿の中間に位している。

(一) 陸上綿 *upland cotton*

通常、米綿と呼ぶときには陸上綿をさしている。このなかで、最長の毛筋 *staple* をもつ短毛陸地綿 *upland short-staple cotton* が全体の九十六パーセントをしめている。コトンベルト、および加州のイムペリアル溪谷に産し、平均の一寸毛筋をもって、五〇番手までの製造に使用される。これはアジア産の綿花より毛筋が長いので、世界の綿業国の需要がある。一寸半より一寸の毛筋をもつ長毛種陸地綿 *long-staple upland* はテ

キサスのレッドリヴァー溪谷 Red River Valley ミシシッピー流域デルタ、および南西部の数ヶ所に生産されるにすぎない。一〇〇番手の綿糸製造が可能である。

(二) 海島綿 Sea island cotton

平均一、八吋の毛筋をもつ、最優秀のこの種類は、アメリカ東南の海岸、および島嶼に産する。百五〇番手以上の細糸紡績に使用されるが生産は極めて少い。

南北五百哩、東西千六百哩に及ぶコットンベルト、ならびに加州の綿作地においては、大体四月に植付を開始する。摘取開始は八月一日より九月五日、摘取終了は十二月一日より一月一五日の間である。綿花の生育期は北方境界の二百日から、南方諸地域の約九ヶ月にわたる(II. H. McCarty: The Geographic Basis of American

Economic Life, 1930)といわれているが、要するに播種

より収穫迄は印度綿の最短一〇七日、米綿一二二日、エジプト綿の一八五日等の相当長期間を要する。開花

後六十乃至七十日で蒴果 cotton boll は卵の大きさとなる。印度綿の特殊なものを除けば、米綿長毛種が最大のボールをもつ。

生産性の向上と機械化の限界

最近十年間におけるコットンベルトの綿作労働力と生産性の向上は驚異的である。綿花生産の増大が、近代的な農機具、化学農薬品の利用によることは、言を俟たない。綿花摘取を人間労働力の百分一で行うストリッパー stripper が一九四五年以後二万台に急増した

(日本紡績月報一九五三年七月号クロード・ウェルチ論文参照)といわれる。年間全米産出高の三十パーセントはこれら近代的設備の賜である。機械摘取の可能のためには落葉剤 defoliation の使用が先づ挙げられるが、この農薬薬品によって葉を落し、通風をよくし、陽光を充分にあて、先づ蒴果 boll の腐敗を防止する。従って、害虫を最小限にくいとめる効果もある。又、枯草剤 herbicide による雑草の生育防止も行われている。

除草焼却、中耕、殺虫剤撒布等の結合した作業のた

めに、農業機械の新機軸、コムバイン combine の使用も行なわれている。これらの労働力の節約は、綿作労働人口に影響し、綿作地帯の労働者数は一九四〇年の五十万人より一九五〇年の四百参拾万人に減少した（前掲月報、全米綿花評議会生産取引部長ウエルチ氏報告）といわれ、現在綿作労働者一人当り年間収穫量は十五俵内外であるが、近代的設備と化学薬品の改良によって五十俵以上に増加させることの可能性を示唆している。しかるに一方、綿作農業における機械化は、フルヤー（Fuller: 前掲書 P. 63）の指摘するように、「オクラホマ、テキサスにおいては全綿作反別の八割」に達しているが、南東部諸州、すなわちヴァージニア、南北カロライナ、フロリダ、ジョージア、アラバマの各州においては全作付反別の半分にも達しない。年収穫高十俵にも足らない小規模農家は、摘取、中耕、除草を手先で行うのであるから農業機械は殆ど使用しない訳である。

次に州別綿花収穫高（一九五一年—五二年綿花年度）を示して生産状況を概括しよう。加州綿はサン・オーキン溪谷の灌漑綿で、テキサス、ミシシッピーにつぐ第三位をしめている。特に、アジア、アフリカ各地で問題になっているのは灌漑による綿作であるが、世界の各綿作国で良好の収穫を挙げている。

米国州別綿花収穫高 (1951—1952年)

単位1,000俵

ノースカロライナ	560
サウスカロライナ	660
ジョージア	725
アラバマ	890
テネシイ	625
ミシシッピー	1,885
アライゾナ	1,325
アリゾナ	705
テキサス	3,750
ニューメキシコ	1,010
その他	1,825
	<u>1,083</u>
	15,038

取引事情

米綿の包装は、黄麻製の粗布の俵に入れ、スタンダード・ボールは重量、五百封度である。時に重量二百五十封度のものを一俵として勘定することが往々にあ

る。米綿のランニングペール Running bale というのはこれ等を含んだものを指すわけである。輸出用は八本の帯鉄で締め、フラット俵といわれる。

米綿の格付は、つぎに表示するとおりであるが、大量取引を便利にするため、繊維の毛筋の長さ staple 弾力 strength 織度 fineness 均斉度 regularity 色沢 color 夾雑物の多少、などを検査して、品位を一般的に決定する。米綿はミドリリング¹⁵/₁₆を標準品 basic grade として、更に取引を便にする。繊維の長さ¹⁴/₁₆時の相異により、一俵の価格に二十五ドルの差等を設けること(Benton: 前掲書 p. 182)がある。

九階級の格付があり、取引単位は一封度、建値セントで表示する。

(米綿の格付)

- M.F. Middling Fair (最上の品位)
- S.G.M. Strict Good Middling
- G.M. Good Middling
- S.M. Strict Middling
- S.L.M. Strict Low Middling
- L.M. Low Middling

- S.G.O. Strict Good Ordinary
- G.O. Good Ordinary
- M. Middling (標準品)

定期市場 futures として、ニューヨークおよびニューオルリンズがあり、南部に現物十大市場 spot がある。

南部十市場 U. S. 10 Mkts. Mkts. はニューオルリンズ New Orleans ガルヴェストン Galveston グラス Dallas メンフィス Memphis チャールストン Charleston リトルロック Little Rock オーガスタ Augusta アトランタ Atlanta ホーストン Houston ならびにモンゴメリー Montgomery にして、最近カリフォルニアのフレスノ Fresno が加州綿の中心地として登場したので、モンゴメリー、ガルベスタ、チャールストン、又はオーガスタの脱落はまぬがれない。

加州綿は、米綿の本流からは継子扱いをうけてきたが、日本とのつながりを重視して、連邦政府の指定が行われる筈である。その外、グリーンヴェール Greenville ラボック Lubbock グリーンサツズ Greenwood

等が新候補地として挙げられているが、政治的な問題もあり、容易に解決されない模様である。平衡価格 Parity 算出、その他の重要なデータが、十大市場の値額の平均より求められる関係から、この市場指定には慎重を期しているわけである。

綿花相場

一九五二―五三年綿花年度には、三二、三仙台に下落し、平均三十七仙を現出したが、世界的な綿花の生産過剰と、各綿産国の輸出競争によって、いよいよ綿花相場の値下りはまぬがれない状態である。一九三五―三六年綿花年度以降の綿花相場は次表によって知ることができる。

ニューヨーク綿花相場

(年次)	(平均)	(高値)	(安値)
一九三五―三六	一一・七五	一三・六五	一〇・六五
一九三六―三七	一二・九三	一五・二五	一一・一八
一九三七―三八	八・七五	一一・三五	七・七一
一九三八―三九	九・〇〇	一〇・〇二	七・八八
一九三九―四〇	* 一〇・四〇	* 一一・六六	* 八・八二

米国の綿花生産とその処理策 (森川)

一九四〇―四一	一一・五五	一七・九一	九・六八
一九四一―四二	一九・一三	二一・三九	一六・三五
一九四二―四三	二一・〇〇	二二・二四	一九・一二
一九四三―四四	二一・三〇	二二・八一	一九・八〇
一九四四―四五	二二・五七	二三・五九	二一・七六
一九四五―四六	二六・六八	三六・四七	二二・八〇
一九四六―四七	三五・四五	四〇・一八	二八・七〇
一九四七―四八	三五・四五	三九・六三	三一・一〇
一九四八―四九	三二・九八	三四・三一	三一・五二
一九四九―五〇	三二・六八	四〇・〇〇	三〇・二二
一九五〇―五一	四三・五七	四六・〇六	三六・七五
一九五一―五二	四〇・五一	四四・六五	三五・〇五

統計出所―日本綿花協会作製一九五三年度版第三十三表

* 印一九三九―四〇年度以前はミドリリング%

政府綿花融資政策 (Government Loan System)

一九四〇年代の繁栄の真只中においても、綿作農民の大半は一九二〇年代の恐ろしい農業恐慌のあざやかな記憶におびやかされていた。第二次大戦中、従って又これに従う数年間は、大多数の商品と同じく保護を必要としてなかったのであるが、平衡価格の九十パーセント迄、政府は、戦後の二年間保障した、産業の継

統一的な雇用、マーシャル・プランによる西欧への輸出の確保、統制の解除にともなうインフレのための補償支払 Benefit Payments 等々によって、一九四七年の農業所得が未曾有の記録を打樹てた際においてさえ、この不安定な感情の現れは綿作を含む各種農業団体を、恒久的な農産物価格支持対策の強い要求として現れていた(Williamson: Growth of the American Economy, 1951 Prentice-Hall, P. 634) のである。

綿花融資の歴史は故ローズヴェルトのNIRAの一環としての農業調整法AAAによって、一九三三年以来、綿花価格の下落により農民の被る損害を防止するため、毎年綿花融資率（平衡価格に対する比率）が決定され、その融資率によって、農民は何時でも、自己の綿花にたいし、政府の融資をうけることができるようになった。したがって「綿作農民は綿花の市場売出しの期間を延し、最低価格を保証されることになる」

（村山高著 世界の綿業）わけである。

綿花平衡価格 parity price とは、農民の生活の保障

と農産物の生産を確保するために、一封度当りの生産原価を計算して、その標準価格をパリテイとして発表する。この価格の九十パーセントを限界に政府が融資するのである。一九三三年度融資は十仙融資、一九三四年十二仙融資、一九三五年九仙融資、（のち十仙となる）、一九三七年九仙融資等の如く、称えられ、米綿相場に影響するところが多大である。一九五一年—五二年度における平衡価格、現物価格、融資率を示せば左の如し。

(1951—52) 綿花年度	(平衡 価格)	(綿花 価格)	(融資)
八月	33.85	34.60	} 30.46
九月	33.85	38.73	
十月	33.98	36.21	
十一月	34.10	41.00	
十二月	34.10	40.24	
一月	34.35	38.70	
二月	34.47	37.25	
三月	34.47	36.72	
四月	34.35	37.30	
五月	34.35	36.08	
六月	34.35	38.02	
七月	34.35	37.02	

註—日本綿花協会1953年版第三十八表より
(ミドリリング $\frac{7}{8}$ 1lb 当り仙)

過剰綿花の処理対策

近來、米国外の綿産国の増産、ドル不足による資金的な障害などによって、一九五一年―五二年綿花年度の輸出五百七十五万俵に比し、五二―五三年綿花年度は三百四万九千俵に減少した。この年度在庫は五百五拾万俵であつて、一九五一年―五二年度末在庫の二百六十万俵の二倍以上となつた。

これらの前掲数字との關係を、過去二年間の米綿需給の統計を挙げて参考にしよう。

1950—51綿花年度米綿需給

單位千俵

期首在庫 1950年八月一日現在	6,846	
生産高	9,877	
輸入高	188	
計		16,911
国内消費	10,509	
輸出高	4,108	
汚損高	16	
計		14,633
次期繰越高 1951年七月卅一日現在		2,278

1951—52綿花年度米綿需給

期首在庫 1951年八月一日	2,278	
生産高	15,050	
輸入高	200	
計		17,528
国内消費	9,118	
輸出高	5,752	
汚損高	50	
計		14,920
次期繰越高 1953年七月卅一日現在		2,608

註一 國際綿花諮問委員会発行季刊統計及び日本綿花協会（1953年版第三十二表）より作成

米綿の第三次收穫予想は去る十月九日、米國農務省発表により、若干五百五十九万六千俵といわれている。この綿花の豊作と需要の減退（特に輸出の減少）は過剩化に拍車をかけ、尙又、世界的にも綿花は過剩気味であり、米政府は是が非でも輸出促進に馬力をかけることになるであらう。

米綿は価格が支持されているので、作付制限が強制されない限り、生産の調整は期待し得ず、更に一九五三年の作付は政府の勧告を上廻り、過剩化を一層深刻

にしたことも事実である。

従来、食糧及び農産物の巨大ストックに対し、価格の維持、生産の調整、消費の増大等の目的をもつて、種々な形態による国内的又は、国際的な調整機関が設けられていた。連邦政府および関係諸国の関心も、これら商品の価格変動のもたらす社会的影響にむけられた。政府はこのような見地から、一九五一年国際綿花諮問委員会 International Cotton Advisory Committee に干与したのであった。(Heak: Foreign Commerce 1953, p. 407) 国際綿花諮問委員会は、一九三九年に設立され、世界の綿花需給事情に関係のあるデータを蒐集、統計の作成に従事する機関である。

世界過剰綿花処理のために、生産の調整、消費の増大について、国際的な共同研究が提唱され、今次の国際綿花協定にも主導的である。

過剰綿花の対策として、国際綿花協定のほかに、MSA、ECAによる援助輸出、綿花借款などがあり、過剰綿花の有利な処理方策として実施せられている。

その他綿花輸出を促進するための特別融資法も立案中であるという。ともに、アメリカによる各国への資本輸出、市場確保政策の最も集中的な現れとみることできよう。

綿花借款 Cotton Credit

一九五二年十二月、ワシントン輸出入銀行 Export Import Bank of Washington より日本銀行に宛て、四千万ドルの第三次クレディットの供与があったが、西独、スペイン、フランス、および、コロンビア等の諸国においても、一九五一年九月より一九五二年五月にかけて、米政府の綿花借款による綿花の輸入が行われた。米政府のこれ等諸国にたいする、現行借款総額は、一億六千七百万ドル、綿花割当数量は、八十三万五千俵であつて、前記諸国および、日本宛一九五一年十一月十五日附供与額四千万ドル、二十万俵を含む数字である。(一九五二年六月三十日現在、日本綿花協会作成統計 第四十二表参照)

MSAおよびECA(経済協力法)の援助による綿花

の輸出

ヨーロッパ諸国、特に伊太利、西独、和蘭陀、フランス、英国、ならびに台湾、朝鮮等は一九五〇—五一年綿花年度よりその輸出割当をうけ、初年度において約二百万俵、その金額は四億五千百参拾万弗におよんだ。一九五一—五二年度においては、台湾を除く殆ど前記諸国が七十二万八千俵の積出しを受け、その金額は七億五千八百二十万弗であった。

一九五二—五三年（五十二年十二月十日迄の割当）

綿花年度は、M S A基金のみにて、オーストリア、デンマーク、西独、フランス、伊太利、ユーゴスラヴィア、台湾、印度支那等の諸国合計七十一万俵の供与をうけた。その援助総額は七億四千二百六十万ドルであった。（国際棉花諮問委員会の資料による、日本棉花協会統計第四十一表参照）

わが国もM S Aの追加条項による綿花の供与について検討しているが、次のような条件によって受入れる方針のようである。（十月十日、毎日）

米国の棉花生産とその処理策（森川）

(一) 一定数量の買付義務を負わない

(二) コマーシャル・ベースとし、価格、品質も一般取引と同様のこと

(三) この棉花による製品の輸出は自由とすること

戦後の経済再建計画の焦点は、綿製品の加工貿易を、貿易の主軸とすることであったにもかかわらず、食品、その他の重要な輸入にあつたために、棉花輸入に当てられる外貨予算は嚴格に規制されている。日本の

綿業は、現在稼働紡錘数七百万錘であるが、原料綿の不足によって、操業率の低下をまぬかれない状態である。

戦時戦後の日本経済の著者、ユーヘン J. B. Cohen

(Japan's Economy in War and Reconstruction 大内兵衛訳 p. 321—323)

の所謂「巨額のアメリカ政府の棉花ストック」と「総司令部の分析の結果」の宿命的に、高度な米綿との依存関係が事実としても手持外貨の枠外であるならば、かかる輸入は歓迎すべきではないであろうか。

国際棉花協定

米政府は他の綿産国とともに、棉花価格安定のため

の国際協定を、消費国との間にむすぶことを提案して
いる。協定案に次の二案がある。

(一) 緩衝在庫 Buffer-Stock Schemes

(二) 多角協定主義

前者は協定加盟国は国際的な綿花操作機関を設け、
綿花を大量にプールし、綿花の値下りしたときに買付
け、値上りしたとき、ストックを放出して価格を安定
させるものである。後者は各国別に数量を定め、最低
最高価格を設定する。たとえ最高を上廻った時でも、
一定数量は、その協定最高価格で消費国へ供給する義
務を負い、その反対に、最低を下廻ったときにも、協
定最低価格で、消費国は輸入せねばならない。

日本その他の消費国は「他の国々が協力するならば
加盟してもよい。しかし、この際あせって購入する必
要もなく、多量の綿花をプールして預る必要もない」
(日本綿花協会)という。この協定は生産国、消費国
が、もれなく加盟する必要があつて、小麦協定におけ
る英国の脱退の如き、苦々しい経験が、当事者の記憶

にあざやかなうちは、最終的な結論は困難のようであ
る。 一九五三年十月

参 考 文 献

- J. L. Fulmer: Agricultural Progress in the Cotton Belt
since 1920. 1950
- Cotton Year Book 1952 (Textile Mercury)
- Harold F. Williamson: The Growth of the American Eco-
nomy 1951, Prentice-Hall
- H. H. McGary: The Geographic Basis of American Eco-
nomic Life 1940 Harper & Bro.
- ローレン著 (Japan's Economy in War and Recon-
struction) 戦時戦後の日本経済 大内兵
衛訳 岩波書店
- Japan Cotton Statistics 1953 (日本綿花協会)
- N. A. Benton: Fundamentals of Economic Geography
William V. Royen: 3rd ed. 1950 Prentice-Hall
- Harold H. Heck: Foreign Commerce 1953 N. Y. Mc Graw-
Hill
- 世界の綿業 村山高著 日本紡績協会
- 商品辞典 東洋経済新報社
- 日本紡績月報 第七号 一九五三年七月 日本紡績協会
- 商品科学事典 佐久間哲三郎 ダイヤモンド社